

### 3 ヘキサチューブによる省力造林試験（第4報）

予算区分：県 単  
担当科名：森林育成科

研究期間：平成 11～15 年度  
担当者名：小谷 二郎

#### ・目的

近年、下刈り等の保育作業の省力化が叫ばれている。また、造林木に対するノウサギ等の野生哺乳類の被害も目立っている。その影響もあってか、造林木を被覆するチューブに対する関心が高まっている。そこで、ヘキサチューブによる造林木への影響や効果について試験する。

#### ・試験内容

- (1) 豪雪地帯での効果試験 - 白峰村下田原県有林内  
試験木：ミズナラ（現在4年生）
- (2) アテ・スギに対する効果試験 - 輪島市町野町金蔵地内  
試験木：スギ実生、アテ空中取り木苗（いずれも現在4年生）

#### ・試験結果

##### (1) 豪雪地帯での効果試験

ヘキサチューブを設置したミズナラの樹高は 113.1cm（昨年より -22.0cm）で、設置していないミズナラの樹高の 122.6cm（昨年より +15.8cm）よりも 9.5cm 下回った。雪解け時に雪の沈降圧によってチョウチンダタミとなったものは、中の苗も折れていた。また、チューブから出たものも、雪圧のためチューブの出口で折れていた。

##### (2) スギ・アテに対する効果試験

ヘキサチューブを設置したスギの樹高は 225.0cm で、設置していないスギ（126.7cm）よりも 98.3cm 上回った。また、アテでは設置したものが 103.5cm で、設置していないアテ（51.0cm）よりも 52.5cm 上回った。ただし、チューブ内のアテは葉の先端部分での成長を測定しているので、正確な成長の比較は出来なかった。

#### ・今後の問題点

ミズナラのチューブ設置区では、豪雪地帯であるため、雪による沈降圧被害が著しく、雪解け時にチューブを立て直す必要があった。また、アテではチューブ設置によって芯が伸びずに、葉先が伸びる現象が確認された。スギに対しては、現在のところ大きな問題はないと思われる。